

景気後退が懸念されるユーロ圏

ポイント① ユーロ圏、エネルギー需給がひっ迫

8月23日に発表された、8月のユーロ圏PMI（購買担当者景気指数）は、製造業、サービス業ともに、低調な結果となりました。特に製造業は景気の拡大・後退の分岐点である50ポイントを2カ月連続で下回りました。ロシアからの供給不安などを背景に天然ガスなどのエネルギー価格が高騰しており、今年の冬にはガス不足も懸念されます。また、記録的な猛暑による渇水で独ライン川の水位が低下し、大型船舶の航行が困難になっており、発電用石炭の運搬に支障が出ているため、電力需給がひっ迫する可能性も考えられます。エネルギー価格のみならず、食料品をはじめとした生活必需品も高騰していることなどから、消費者は支出を抑制しており、サービス業も低調となっています。

ポイント② 英国は人手不足も課題

同日に発表された英国のPMIも製造業は46ポイントと、大幅に低下しました。EU（欧州連合）からの離脱により移民労働力が減ったこと、ウクライナ侵攻が業況感の低下に影響を及ぼしているようです。また、国内のインフレ高進に伴い消費者の購買力が低調となっていることも背景の一つとなっています。

ポイント③ 景気後退に陥る可能性に注意

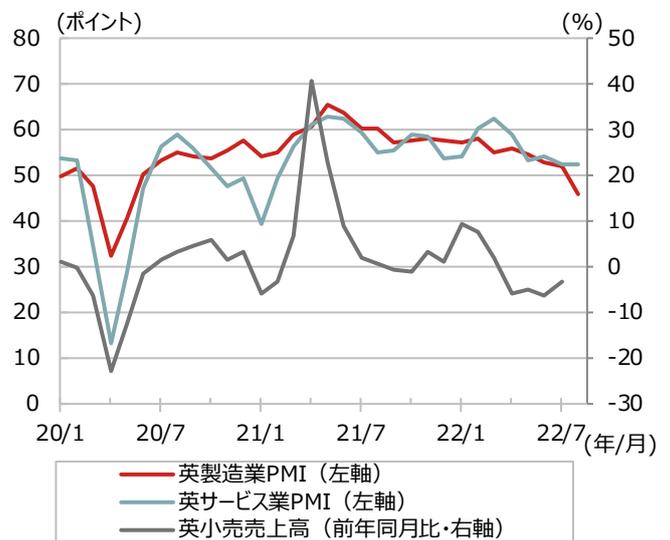
ユーロ圏、英国ともに景況感は低調ですが、インフレ圧力は今後も強い状況が続く見通しです。両者の中央銀行ではインフレ抑制に向け、利上げを更に加速させる可能性が高まっています。ウクライナ情勢やエネルギー不足が解消されない状況下での金融引き締めはユーロ圏・英国の景気後退に繋がりがかねません。状況次第では、金融引き締めペース見直しも想定されるため、今後の動向には注目です。

ユーロ圏PMIと消費者信頼感指数



期間：2020年1月～2022年8月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

英PMIと小売売上高



期間：2020年1月～2022年8月、月次
※英小売売上高は7月まで
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

8月31日 ユーロ圏消費者物価指数 (8月)
9月8日 ユーロ圏金融政策発表